

瀬戸内海における航路を活用した広域周遊観光の可能性調査について

一般社団法人中国経済連合会（会長 荻田知英）は、中国電力株式会社（社長 清水希茂）ならびに公益財団法人中国地域創造研究センター（会長 瀧本夏彦）と共同で、瀬戸内海における航路を活用した広域周遊観光の可能性に関する調査を実施しました。この度、同調査結果を報告書としてとりまとめましたので、お知らせします。

1. 調査目的

瀬戸内海の島しょ部は、多島海景観を形成する豊かな自然に恵まれ、数多くの歴史・文化遺産を有していますが、人口減少や地域産業の停滞による地域活力の低下など深刻な問題を抱えており、生活航路の維持が大きな課題となっています。

一方、近年は、海外向けプロモーションにより瀬戸内の認知度は向上し、瀬戸内エリアの観光スポット造成が進むなど一定の効果が現れています。こうした中、2017年10月、せとうちクルーズが観光ラグジュアリー船「ガンツウ」を、また2020年9月、JR西日本と瀬戸内海汽船が、広島港、三原港間を結ぶ観光型高速クルーザー「シースピカ」を運航開始するなど、瀬戸内海の島々を巡る周遊観光の新たな取り組みが注目されています。今後は、コロナ禍で減少した観光需要の回復に向け、こうした航路を活用した広域周遊観光の取り組みを定着・発展させる必要があります。

このため、本調査では、瀬戸内海の広域周遊観光や滞在型観光の促進に向け、周遊の手段となる船舶の航行に関する課題や港湾の整備状況など受入環境の実態と課題を把握するとともに、寄港地においてコロナ禍でも比較的安全に楽しむことが出来るアドベンチャーツーリズムなど自然を活かした体験型の観光コンテンツの造成の可能性等について検討しました。

2. 調査結果（概要）

別添の調査報告書「瀬戸内海における航路を活用した広域周遊観光の可能性調査」の冒頭にある（概要版）をご参照下さい。

3. 調査結果の具体的活用方法

この調査結果については、国・地方の行政機関や観光関連団体等に情報提供するとともに、当連合会の事業活動に活用してまいります。

- ・本調査結果は、当連合会ホームページに掲載しています。
URL：<https://chugokukeiren.jp>
中国経済連合会トップ—提言・要望・報告
- ・調査内容に関するご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。
中国経済連合会（担当：島末）
(TEL：082-242-4511 FAX：082-245-8305)

以 上